

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	地域経済
氏名:	寺門 一義 株式会社常陽銀行取締役頭取
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	今後、本格的な人口減少と高齢化の進展、グローバル化の加速、情報インフラの発展、環境・エネルギー問題の深刻化、社会インフラの老朽化問題など、環境変化が激しさを増し、地域を支えてきた社会基盤・産業構造が大きく姿を変える懸念がある。社会基盤変化は、価値観の多様化と消費構造や需要の変化、「まち」や地域医療・福祉の役割変化、過疎地問題顕在化・地域間格差の拡大・空き家の増加、交通基盤変化と行動圏拡大など。産業構造変化は、大手企業と地域企業の関係性変化、商流・ビジネスプロセス変化、雇用量・質の変化、エネルギーの需給構造変化、競争環境変化、農業基盤縮小などがあげられる。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	高齢化に伴う老後の社会保障や地域医療・高齢福祉サービスの充実化、利便性の高い都市機能(コンパクトシティ)の実現、少子高齢化対策としての子育て環境の充実化、安定した「働く場」の創出などで、変化する地域住民の期待に応える必要性が高まる。さらに、観光、外国人雇用、移住などで受け入れた多様な人材が地域の応援団となることによって交流人口を増やすなど、地域の各主体が連携して地域活性化に取り組む必要がある。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	希望ある将来の地域像を描き、実現していくためには、課題解決の視点に加え、新たな展開を模索する「価値創造」の視点が不可欠である。地域の「潜在力」、潜在力を掘り起こし活かす方策を考える「デザイン力」、デザインした形を実行に移す各主体の「連携力」が必要となる。3つの力は、それぞれが価値創造に繋がるとともに、組み合わせられることで相乗効果を発揮し、より大きな価値を生み出す可能性が生まれる。具体的には、モノづくり・創業・6次産業化支援、移住促進、中古市場整備による空き家対策、観光などで地域資源を最大限活用すべく、官民など地域の各主体はもちろんのこと、広域地域間ネットワーク連携の視点で取り組む必要がある。